

〔果樹〕

1. 常緑果樹

1) 温州ミカン

生産量は全県とも前年比 66～85% と不作で、典型的な裏年の様相を呈した。発芽は鹿児島県が平年より 5～8 日早かった以外は 2～9 日遅く、開花はいずれの県でも 2～7 日遅かった。着花量はやや少、果実肥大は全般的に平年並み～不良、着色は平年より遅れたところは多かつた。成熟期は宮崎、鹿児島県が平年並み、他は 5～10 日遅かつた。糖度は福岡、熊本、宮崎、鹿児島県が高くて、佐賀、長崎県が平年並み、減酸は大分、鹿児島県で早く、福岡、佐賀、長崎、熊本県が平年並み、宮崎県が遅かつた。食味は全般的に良好、外観は梅雨期の多雨明け以降の高温による日焼け果、台風 13 号による傷果、収獲前の高温による浮皮果、カメムシ被害の発生、不良となつたところが多かつた。病害の発生は全般的に平年並みであつたが、8 月以降の黒点病、台風 13 号被害を被つた福岡、佐賀、長崎県でのかいよ病の発生が多かつた。虫害ではカメムシ、サビダニが多かつた。

2) 中晩生カンキツ

発芽は熊本県が平年より 2～4 日早かつたが、他県では 2～6 日遅く、開花期は全般的に 3～6 日遅かつた。着花量は鹿児島県のポーン収量は宮崎県が少く、他県は平年並み～多かつた。着色は平年より遅かつた。糖度は各品種とも平年並み～多かつた。甘夏は 7 日遅かつた。ウガは平年並み～多かつた。味は平年並み～多かつた。食味は平年並み～多かつた。降雨による病は 9 月の下旬以降の雨が多い。

3) その他

生産量は長崎、鹿児島県とも前年に続き開花は遅かつた。あつた。12 月中旬に低温にやがて平年並み程度に回復した。果実肥大は平年並み程度に達した。糖度は平年並み程度に達した。減酸は平年並み程度に達した。虫害は平年並み程度に達した。

2. 落葉果樹

1) ナシ

状況は鹿児島県のやや豊作以外はやや不作～不作であつた。発芽および開花期は総じて平年より 2～7 日早く、成熟期は宮崎、鹿児島県が高かつた以外は全般的に低く、食味は平年並み程度に達した。糖度は平年並み程度に達した。減酸は平年並み程度に達した。虫害は平年並み程度に達した。

3 . 熱 帯 果 樹

1) パインナップル

沖縄県の作況は平年並み、発芽、開花期、成熟期は1週間程度遅かった、果実肥大は不良であったが、糖度は高く、味は良であった。目立った病虫害の発生はなかった。

2) マンゴー

沖縄県の作況は平年並み、発芽、開花期、成熟期、果実肥大、糖度、味、外観等はすべて平年並みであった。病虫害ではチャノキイロアザミウマの被害が目立った以外はとくに問題はなかった。

(果樹研究所カンキツ研究口之津拠点 今田 準)